

新発田市 令和7年度 第7回定例記者会見

1 日 時 令和7年10月2日(木)午前11時～

2 場 所 ヨリネスしばた501会議室

3 内 容

【市長発表項目】

○「シバたいちじくフェア2025」開催

○新発田農業高校×イオン新発田店「芝農フェスタ第1弾」開催

○公共施設のネーミングライツパートナー決定について

○「紫雲の郷館」運営事業者を募集します

【その他】

○秋季企画展「11代藩主直溥の覚悟～五万石から十万石への決断～」

○令和7年度 新発田市総合防災訓練を実施します！

○海外の新発田市観光アンバサダーが来訪します！

○第26回 全国「花嫁人形」合唱コンクール

○環境エコカーニバル ～未来の環境をみんなで考えよう！～

○みんなで一緒に考え、気づき、話そう アンコンシャス・バイアス
(新発田市男女共生市民講座)

○新発田城跡発掘調査 現地説明会

○第54回新発田市美術展覧会(市展)と

第53回幼児、小・中学校美術展(市ジュニア展)一次展開催

○新発田まちなかハロウィンパーク2025開催！！

○「悪魔のおにぎり」考案者が教える！極限の地、南極で見つけた暮らしの知恵 (渡貫純子 講演会)

○新発田出身アーティストセレクション vol.16「渋谷駿 マジックショー」

○みんなのプラスポフェスタ2025を開催！！

○新発田市建設工事優良施工業者等表彰式

あいさつ

- 元NHKアナウンサーの鈴木健二さんは「目配り、気配り、心配り」というフレーズで有名でありました。記者の皆様からも目配り、気配り、心配りをいただき、新発田を色々な意味で取り上げていただいております。本日の会見内容も多くの記事として取り上げていただきたいと思います。
- 記者会見資料にある歴史図書館秋季企画展「11代藩主溝口なおひろ直溥の覚悟」は、市長としても勉強したいと思っています。戊辰戦争開戦前の幕末の時期に5万石から10万石としたことは、メリットだけでなくデメリットも相当あったはずであると思いますが、その覚悟は、同じ政治をするものとして興味があります。
- 本日は秋晴れとなり、過ごしやすい季節となりました。秋の果物であるいちじくの蓬萊柿ほうらいしで、当市はイベントを起こしています。本日は、参加店舗の和菓子屋さんがお見えになっていますので、いちじくといちじくを使った商品を試食していただき、本物の味を知ったうえで記事にしていきたいと思います。

それでは、会見項目を説明いたします。

はじめに、「シバタイちじくフェア2025」の開催についてです。

○今年も新発田が誇る「いちじくフェア」がやってきました。当市で生産される「蓬萊柿^{ほうらいし}」は、西洋いちじくに比べるとサイズは小さめですが、甘味が強く、プチプチとした食感や上品な風味が特徴です。新発田では五十公野地区を中心に明治時代から栽培されています。

○そんな旬のいちじくが市内各所で味わえる「シバタイちじくフェア」は、今年で5年目を迎えます。今年度は、市内18店舗の菓子店、洋菓子店で限定・いちじくスイーツが店頭に並びます。複数店舗での商品御購入で景品が当たるスタンプラリーも実施しますので、ぜひ足をお運びいただきたいと思います。

○また、体験型イベントとして、アサカ農園さんによるいちじく収穫体験、新発田ガスさんによるいちじくを使った料理教室なども実施します。さらに蔵春閣では、入館者へ月替わりで市内のスイーツを提供するカフェプランの中で、いちじくスイーツが登場しますので、新発田の秋を「いちじく」で存分に楽しんでいただきたいと思います。

○さて、本日は、いちじくフェアの実行委員長である金子屋老舗^{かねこやしにせ}の金子俊文さんが今年のいちじくスイーツを持って来ておりますので、フェアの詳細について説明いただきたいと思います。

・しばたいちじくブランド化プロジェクト実行委員会 金子実行委員長による「シバタイちじくフェア」の説明

○ありがとうございました。本日はフェア参加店のスイーツを一堂に御紹介しております。ぜひ写真と併せて記事に取り上げてくださいますようお願いいたします。

次に、芝^{しばのう}農フェスタ第1弾の開催についてです。

○市では若者との協働によるまちづくりや、民間企業と連携した地域課題に対する取組を進めておりますが、この度、新発田農業高校とイオン新発田店のコラボイベント「芝農フェスタ」が開催されることとなりました。

○このイベントは、「外部への学校の魅力発信」を目指す新発田農業高校と、「新発田の地にオープンして20周年を迎え、一層の地域連携」を目指すイオン新発田店の両者を市がマッチングしたものであり、多様な主体が参画するまちづくりを目指す本市としても、本イベントを通じた賑わい創出や地域の魅力発信に大いに期待をしているところです。

○10月10日に開催される「芝農フェスタ第1弾」では、同校の生徒が講師となり、いま流行^{はや}りの苔テラリウム作りや農業高校の魅力を余すことなく紹介されると聞いております。

○また、今回のコラボイベントは第1弾にとどまらず、11月には新発田農業高校で生産・加工された農産物や加工品の販売が予定されているとも聞いております。こちらの詳細につきましては、近くなりましたら改めて皆様へお知らせいたします。

○報道機関の皆様におかれましても、ぜひイベントへお越しいただき、新発田の若者たちのエネルギーや新発田農業高校の特色ある取組を御覧くださいようお願いします。

次に、公共施設のネーミングライツパートナー決定についてです。

- 今年の５月、当市では初の、ネーミングライツパートナーを募集したところ、「株式会社愛工機器製作所」さんから御応募をいただき、この１０月１日から、新発田駅前複合施設「イクネスしばた 多目的室１」の愛称は「^{アイコウキキ}AIKOKIKI未来ルーム」となりました。
- 地方では人口減少が進み、公共施設の維持が課題となっています。ネーミングライツ制度は、自治体にとっては財源確保、利用者にとっては適切な維持管理による利便性・安全性確保、企業・団体にとってはPR・地域貢献など、「三方よし」の制度として期待されています。
- パートナーの「愛工機器」さんは、愛知県春日井市に本社があり、昨年４月から、当市五十公野でも工場を稼働し、^{ファイブジー}５G通信や人工知能（AI）の普及拡大で、需要が見込まれる「パッケージ基板用コア」などを生産・販売され、また、当市の雇用創出にも大いに貢献をいただいております。
- 「イクネスしばた」は、新発田市の公共施設の中で最も集客力のある施設で、昨年度は約３５万人の方に御利用いただいております、中学生、高校生など若い世代の利用が多いことが特徴です。
- とりわけ、「多目的室１」は、予約が入っていない時間帯を学習スペースとして開放しており、試験期間中などは、学生で席が足りなくなるほどですので、若者へのPR・企業のイメージアップに大いに貢献できると考えております。
- 命名権料は施設の維持管理費用に充てる予定です。今後は、他の公共施設にも対象を広げていきたいと考えております。

最後に、「紫雲の郷館」の運営事業者募集についてです。

- 紫雲の郷館は、平成17年5月の市町村合併に伴い、新発田市が引き継いだ温浴施設ですが、合併協議における累積債務問題や近隣の類似施設との過当競争など、当時から課題が山積しておりました。
- また、自主事業の失敗、コロナ禍、物価高騰等の影響もあり、昨年には、運営主体であった第三セクターが自己破産に至るなど、まさに、行き詰まった状態で新発田市に託されております。
- この現状を打破するためには、新たな一手が必要と考え、10月1日から紫雲の郷館を一体的に運営する事業者の募集を開始しました。民間の自由な発想で新たな付加価値を生み出し、賑わいや交流を促進できる事業者に託したいと思っております。
- 行政による一律の条件を課すことはしません。豊かな自然と様々なアクティビティが楽しめる県立紫雲寺記念公園内の好立地を生かしながら、独自のビジョンやアイデアに基づく提案を広く募集し、新たな運営事業者を選定させていただきます。
- いただいた提案は、外部有識者を含めた選定委員会で、運営の持続可能性や事業の実現性、地域活性化の効果、市の財政負担の軽減などの視点から総合的に評価、選定し、早ければ2月上旬に事業者を決定する予定です。その後、市との協議を行い、運営開始時期などを決定していきたいと考えております。
- 募集は、市ホームページで周知するほか、必要に応じて専門誌やWebなどへの広告掲載も行いたいと考えておりますが、1社でも多くの応募をいただけるよう、報道機関の皆様の御協力をお願い申し上げます。

本日お知らせする情報は以上になりますが、他にもお配りした資料のとおりイベントなどを予定しております。

報道各社の皆様におかれましては、一つでも多く記事に取り上げていただき、新発田市を御支援いただきますよう、よろしくお願いいたします。